

## エピソード 大国旗の購入

- 昭和3年10月30日

4円50銭の大国旗購入

- 昭和3年11月6日

「南郷村自宅にて山上に国旗を  
翻し敬祝の意を表したり」

(河井弥八日記より)

- 大国旗の大きさ = 約4X2.7m



(発見された日章旗)

平成21年11月22日 南郷文化祭にて

昭和3年11月10日、京都御所で昭和天皇の即位式が行われることになりました。新天皇、皇后を乗せたお召列車が掛川を通ることから侍従次長だった河井弥八氏は、天皇即位を祝して我家の前山に掲げさせた国旗が、この大国旗です。

ふれあいサロン

## 八十一年前の「大国旗」と対面

梅 津 通 男

以前、河井家の「大国旗」の事について、「ふれあい南郷」六十四号で書いたことがあります。その当時からずっと国旗の大きさのことが気になっていました。それが今年七月、河井弥八氏の五十回忌を機に分かったのです。

この「大国旗」の事は、「『昭和初期の天皇と宮中』侍従次長河井弥八日記」の中に出てきます。昭三年十月三十日付で「大国旗を大礼諸儀の当日、くにもと 国許 前山の松樹たに樹つるに決し、之を求む。代金四円五十銭」と記されている。当時の皇太子（昭和天皇の皇太子の時）が大正天皇の喪の明けた昭和三年十一月十日、正式に天皇になるための儀式が京都御所で行われることになったのです。天皇即位をお祝いするために、四円五十銭する大きな国旗を買って、上張の自宅前山に掲げるといのです。

これを読んだ時、前山の松の樹につるす「大国旗」とは、一体どれほどの大きさなのだろう。相当大きな国旗だとは想像つくものの、何分、八十一年前の日記のことですから、確かめようもなく、気になっていました。

ところが、その「大国旗」が現存していたのです。まさか実際に在るとは夢にも思いませんでしたので、対面した時の驚きと感激は大変なものでした。

以前河井邸が市に寄付された折、物品の整理をしました。そのさ中に、そんな「大国旗」とはつゆ知らず、一度は処分されかけたものを惜しむ人がいて、上張の或るお宅で保管していたのです。その後すっかり忘れ、今年の弥八氏の五十回忌に捜し出して陽の目を見たのです。郷里掛川を離れている河井家の現当主やその姉妹も、この「大国旗」の存在をご存知ありませんでした。

この国旗を見せていただくと、大きさは縦約二・七、横約四メートルで、正に「大国旗」でした。大きさはわかったのですが、なぜこんな「大国旗」が必要だったのか疑問が湧きます。天皇の即位をお祝いするなら門口に国旗を掲げてお祝いすることもできます。「大国旗」でなくてもよさそうに思うのです。



平成21年七月十九日 弥八氏五十回忌にて

その答えは、十一月二日の日記に、「大礼使参与河井弥八、大礼行幸供奉被仰付、昭和三年十月二十九日内閣の辞令を受く」にあるようです。京都御所で行なわれる天皇の即位の儀式に新天皇のお伴をなさいという辞令を貰った翌日に、弥八氏は、「大国旗」を注文又は購入しています。この辞令の出ることは、前から承知していたのでしょうか。

十一月六日、天皇を乗せたお召列車が南郷の地をお通りになる。上張の弥八家から北へ七、八百メートル程離れた東海道線までは、田んぼが広がるのみで遮るものはありません。弥八氏は四号車に乗っています。新天皇・皇后と同じ車両に乗り合わせたかは定かではありませんが、大礼使参与の弥八氏がご一緒に乗り合わせていないともいえません。ここからは私の勝手な想像ですが、上張地点を通過する列車からでも、「大国旗」ならすぐに眼に留まります。ご一緒に車両に乗り合わせていたなら、「大国旗」を指して、「我が郷里の村民が、こぞって天皇御即位をお祝いするために掲げているのです。」などと申し上げたのではないのでしょうか。列車から眼に留まるには、それなりの大きさが必要だったのでしょう。

「大国旗」発見を機に、当時掲げられたこの国旗を見た人がいないか探してみました。いました。現在九十歳で御壮健な上張区の大谷正吉さんが、十歳の時に見たというのです。大国旗の事を伺うと即座に

「御大典の時に上げた旗」だとおっしゃいました。

今までずっと気になっていた、日記の中の「大国旗」と対面でき、大きさも分かり、当時掲げられた、「大国旗」を実際に見た人のいる事も知って、何か得難い物を手に入れた心地がして、心満たされた気分です。

(平成21年記述)